

施設マネジメント室（平成18年度・第5回）議事要旨

1. 日 時：平成19年3月15日（木） 10:00 ～ 11:00
2. 場 所：事務局2階 小会議室1
3. 出席者：望月室長、石井哲士朗（大学院地域文化研究科）、豊島正之（AA研）、宮城徹（留日センター）、清水施設課長、宮本施設課課長補佐
以上6名

4. 報告事項

第4回施設マネジメント室議事要旨（平成18年12月20日開催）並びに報告・連絡事項については、意見等がなかったことが確認され、了承された。

(1) 2006（平成18）年度計画・実施データ（案）について

宮本施設課課長補佐より、次のように説明があった。

- 第4回施設マネジメント室では、締切りが12月15日でしたので、この時点までに実施した内容を掲載。
- 資料1（2006（平成18）年度計画・実績データ（案））では3月16日締め切りとなり、前回資料から現在のものまでを追記した。

資料1に基づき、各事項の説明があり、了承された。

(2) 2007（平成19）年度計画（案）について

宮本施設課課長補佐より、各委員へメールで配信した資料2の(276)並びに(277)に、転記ミスがあり訂正していることの説明があった。

望月室長より、次のような説明があった。

- 平成19年度も、年度計画を遂行せねばならない。
- 平成18年度の年度計画は、「順調に遂行されている」との評価を得ている。
- 平成19年度は新たに平成16年度から始まった中期計画・中期目標の達成度について、評価をすることとなる。
- 平成21年度までの中期計画・中期目標を、平成19年度従に達成する必要があるが出てきた。
- 委員各位に於かれては、今後とも達成にご協力願いたい。

(3) 「国立大学法人東京外国語大学研究講義棟研究室等の使用に関する申合わせ」(案) について

清水施設課長より、資料3に基づき、次のように説明があった。

- 学部長・研究科長より要望のあった「研究講義棟内施設使用のルール作り」を、資料3のように作成を完了した。
- 委員各位より定義が曖昧だった「共用スペース」について、第1条第2項ではっきりさせた。
- 施設マネジメント室で異論がなければ、大学院並びに学部の教授会に報告事項として案内することとなる。

標題の件に関し、施設マネジメント室で了承された。

(4) 東京都「地球温暖化対策計画書の評価等」について

正式名称：都民の健康と安全を確保する環境に関する条例（平成12年東京都条例第215号）

清水施設課長より、資料4に基づき次のように説明があった。

- 第一次審査はA～Cの3段階評価。
- 第2回施設マネジメント室(H18・7・20開催)で報告した、東京都環境確保条例「地球温暖化対策計画制度」への取組みの結果、東京都よりA評価を受けた。
- 平成19年度からは、温室効果ガス削減の実績も評価の対象となる。

本学は第2種指定工場のカテゴリーに入っていて、削減目標は1%。

(5) 「(府中) 基幹・環境整備 (国際交流会館周辺整備)」事業について

施設課長より、次のように説明があった。

- 第4回施設マネジメント室で報告のあった本事業は、年度内竣工に向け、最後の追込みに入っている。
- 当初の残土量は15,000m³だったが、現在の残土量は2,000m³程度。

(6) 平成16～18年度 光熱水使用量について（席上配付資料）

施設課長より、次のように説明があった。

- 電気・水使用量は、建物毎に見るとほぼ横ばい、若しくは暫減。
- 都市ガスも、コ・ジェネ以外は同様の傾向。
- コ・ジェネでの使用量が増えているのは、現在行っている超精密分解点検の結果、発

電効率が落ちたことが分かった。(2007年2月・3月運転記録により説明)

- 超精密分解点検により、発電効率画前去れ、ガス消費量は約10%減少した。

宮城委員より、留日センターの都市ガスは、何に使われているのかの質問があり、施設課長より留日センター1階のブンゼンバーナー1ヶ所以外は、ガスエンジン・ヒートポンプと呼ばれる空調機の燃料として使われていると、説明があった。研究講義棟のコ・ジェネ以外、他の建物についても、ガスエンジン・ヒートポンプが空調用として整備されていると、説明があった。

豊島委員より、使用料と料金の関係を比較すると、都市ガスより東京電力の方が有利であると質問があり、施設課長より、東京外国語大学の基本計画は平成8年に作成され、その当時はコ・ジェネの方がトータルで有利であったとの計算が残っていると、説明があり了承された。

これらの結果をふまえ平成19年度以降、コ・ジェネの運転方法を変更することも報告された。

(7) 樹木伐採について

施設課長より、サークル棟北東に植えてあるイタリアヤマナラシ（ポプラ）について、次のような説明があった。

- 当該ポプラの根すでに水を吸い上げる力がなく、復活する見込みはなくなっており、枯死寸前である。
- 根は弱っているが枯れきっている訳ではないので、今すぐ倒れることはない。
- しかしながら、当地は学生の交通が頻繁な場所である。
- 今後強風が吹いた場合倒木する可能性もあるので、平成18年度内に切り倒したい。

説明後異論は出ず、了承された。

(8) その他

委員から、年間を通じて予め定まっている業務があれば、ホームページ等で学内周知した方が、理解を得やすいと提案があり、平成19年度はなるべく早い時期に提案通り実施することとなった。

局長より、今回の施設マネジメント室を持って、平成18年度の会議を終了すると案内があり、委員各位へ謝辞があった。